

個別指導学院アシストの学習指導方針について
～志望校合格と点数アップのために～
2025.10 月版

代表あいさつ

「続けられる学び」を地域に。

個別指導学院アシスト 代表の**前田 敏秀（まえだ としひで）**と申します。

このたびは本冊子をご覧いただき、誠にありがとうございます。

アシストは、2024年4月で4年目を迎える学習塾です。

私は保険業界を経て大手塾に勤務し、

集団授業・個別指導の両方に関わってまいりました。

（余談ですが、店頭パンフレット立ての横に置いてある保険パンフレットの保険商品は、現在も保険代理店として取り扱っております。）

幅広い生徒に、最適な学びを。

対象となるのは、公立小学生・中学受験生・中学生・中高一貫校生・高校生・大学受験生など、

幅広い層の生徒様です。

多くの地域塾が公立中学生専門である中、

アシストでは**「大学受験」を一つのゴール**として位置づけ、

受験にかかわる総合的なアシストを行っています。

現場から見える、今の教育。

2025年4月現在、通われている生徒様は、

公立中学（蒲生中・董中など）よりも、

私立の中高一貫校や高校生が中心です。

この小冊子では、私自身が日々の指導を通して感じている

教育現場の現状と課題、そしてアシストの考え方を率直にお伝えします。

まずはお話をさせてください。

ご関心をお持ちいただけましたら、

ぜひ一度、個別説明会・体験授業にお越しください。

小学校・中学校・中高一貫校・高校――

それぞれの現場で見えてくる「学校の課題」と「伸ばすための方法」。

そして、アシストがどのようにそれを支えていくかを、

直接お話しできれば幸いです。

個別指導学院アシスト

代表 前田 敏秀

I. 小学生指導：読む力・書く力をどう育てるか

1. 小学校の現状と問題点

今、小中学生の学力低下、特に**読解力の低下**が問題視されています。

原因は明確で、主な要因は**スマホ**と言われています。

私自身、アシストを開講する以前から、**読む力と書く力の低下**を強く感じていました。

国語とは日本語です。

国語が苦手な生徒さんは、漫画すら読みません。

小説や物語などはなおさらです。

また、「シンデレラ」「浦島太郎」「白雪姫」などの童話を知らない生徒さんも増えています。

保護者の方は、ぜひ一度お子さんに聞いてみてください。

「シンデレラってどんな話？」

小学校高学年でこれに答えられないようであれば、**国語力は黄色信号**です。

2. 「読めない」には2段階ある

読む力が弱い原因の一つは、**長い文章を読む集中力が続かない**ことです。

国語が苦手な生徒は、A4サイズ程度の文章を読むだけで集中が切れます。

「読めない」には2つの段階があります。

1 文字が追えない段階

集中力が続かず、途中で投げ出してしまう。

→ この場合は、講師が音読し、生徒にも声を出して読んでもらうことで訓練します。

2 文脈が追えない段階

「これ」「それ」などの指示語が何を指しているか理解できない。

→ 文脈を意識させ、読解の構造を言語化していく必要があります。

中学受験の国語では、A3両面にびっしりの長文が出題されます。

この量を集中して正確に読むには、日頃の訓練が欠かせません。

アシストでは、「**本を読む楽しさ**」から**育てる**指導を行っています。

3. 「書く力」の問題とその本質

「書く力」の弱さは、表面上は見えにくいものです。

多くは“記述問題が苦手”として現れますが、根本はもっと深い。

中学までは暗記中心のテストで点が取れるため、表面化しません。

しかし高校に入ると、**英語での「書く力」**に影響が出てきます。

英語と国語は表裏一体です。

英語の苦手な高校生は、例外なく日本語の作文力が弱い。

英単語の意味や文法を理解しても、それを日本語として再構成できないのです。

つまり、「**日本語で考える力**」こそが**英語力の土台**になります。

4. 10歳の壁：学力の分岐点

「10歳の壁」という言葉をご存じでしょうか。

この時期を境に、子どもは次のような変化を迎えます。

- 親の評価より**友人の評価**を気にするようになる
- **劣等感**や比較意識が芽生える
- 運動・学力ともに差が開く

このあたり（小3～4年生）で、**学習のつまずき**が始まることが多いです。

できていたことが突然できなくなる——その背景には「集中力と体力の不足」があります。

例えば、九九が完璧でも筆算を面倒がる生徒は伸びにくい。

一方、計算が遅くても**“やり切る力”**のある生徒******は、最終的に逆転します。

大切なのは、**机に向かう集中力と体力**を育てることです。

5. 国語の重要性と現在の学校教育の課題

国語の点数が良い生徒は、特別な勉強をしていなくてもずっと成績が良い。

一方、苦手な生徒はなかなか上がりません。

なぜか。

国語とは、スポーツでいえば**基礎体力**だからです。

国語が得意な生徒は、他教科も少しの努力で伸びます。

逆に、数学や理科が得意でも国語が弱いと、****五教科合計で壁（450点前後）****にぶつかります。

国語は「集中力」「読解力」「思考力」の総合科目です。

人は言葉で考えます。

だからこそ、**国語力が高い＝思考力が深い＝成績が伸びやすい**のです。

6. 国語力が一番伸びる時期

国語力がもっとも伸びるのは、**小学生のうち**です。

一朝一夕では伸びません。

だからこそ、早期からの積み重ねが大切です。

中学受験を経験した生徒は、国語力が極端に低いことは少ないです。

上位の私立中学生の国語力は非常に高く、

中学生でも有名大学の現代文で合格点を取ることすらあります。

背景には、**中学受験における国語トレーニングの量と質**があります。

ただし、地頭だけで合格した生徒は、勉強習慣がなく入学後に苦勞することも多い。

だからこそ、アシストでは**小学生のうちから国語力アップを意識した指導**を行っています。

7. 小学生の英語教育

現在、小学校でも英語教育が始まっていますが、

現場を見る限り、多くの生徒は身につけていません。

小学校から中学校へ上がると、英語が急に難しく感じるのはそのためです。

アシストでは、小学生のうちに**英検4級**の取得を推奨しています。

中学入学後に「英語が得意科目」になりやすくなります。

8. 英語授業の実態と弊害

小学校英語の現状を冷静に見ると、

「できる子がより伸びる」のではなく、

「ついていけない子が増えた」という印象です。

具体的には――

- **アルファベットの書き方**に変なクセがつく
- **発音の誤り**が放置される
- **中学校でいきなりつまづく**

小学校ではテストがないため、実力差が見えません。

しかし中学校では「英語を覚えている前提」で授業が進むため、

基礎が弱い生徒ほど置き去りになります。

そのため、アシストでは**小学生のうちから英語対策を推奨**しています。

▶ まとめ：アシストの小学生指導理念

- 読む力と書く力を同時に育てる
- 集中力・体力を学習の土台と考える
- 英検4級レベルを小学生の目標に設定
- 「考えることの楽しさ」を教える

アシストの小学生指導は、テクニックではなく**「学びの体質」をつくる教育**です。

国語力を中心に、英語・算数の基礎を繋ぎ、

中学以降の「自立して伸びる力」を育てます。

II. 中学受験対策：早期の決断が将来を左右する

1. 中学受験をすすめる理由

アシストでは、ご家庭に経済的な余裕があり、生徒本人が嫌がっていない場合、中学受験をおすすめしています。

理由の一つは、公立中からの国公立大受験が年々厳しくなっているからです。

特に理系学部では、保護者世代の1.5倍もの学習量が求められます。

さらに、かつてよりも国公立と関関同立の難易度差が拡大しています。

保護者の世代では「地方国立より関関同立を選ぶ」ケースもありましたが、

現在はそう簡単ではありません。

文系は少子化の影響でやや易化していますが、

理系・国公立は難化傾向にあります。

背景には――

- 理系科目の勉強量増加
- 英語の難化（共通テスト・リスニング比率上昇）があります。

2. 中高一貫校のカリキュラムと強み

中高一貫校の多くは、公立校に比べて約1年早いペースで授業が進みます。

（ただし公立準拠の一貫校も一部存在します。）

多くの学校では、高2で高校範囲をほぼ修了し、高3で受験対策に集中します。

特に数学は進度が速く、英語よりも差が出やすい科目です。

理由は明確です。

→ 国公立大2次試験に備えるためには、高2までに範囲を終える必要があるから。

一方、公立高校トップ層（文理学科など）でも、

国公立大志望者の約半数は浪人します。

理由の多くが「2次試験対策が間に合わない」ことです。

理系に限らず、関関同立レベルでも**数学対策が時間的に厳しい**のが現状です。

3. アシストの中学受験対策の方針

アシストは中学受験を積極的に推奨しています。

ただし、中学受験専門塾のように年間100万円を超える授業料は必要ありません。

当塾ではICT教材の活用によりコストを抑え、年間40万円前後で高品質な指導を提供します。

4. 他塾との併用について

集団塾との併用も可能です。

ただし、**同一科目の併用は非推奨**としています。

例：

他塾で算数を受講 → 分からない問題だけアシストで補習

これは混乱を招くため避けるべきです。

塾ごとに教え方が異なるため、**特に国語・算数・理科は併用に向きません。**

社会など暗記系の科目であれば、同一教材を使う限り問題はありません。

一方で、**他塾と異なる科目を受講することは大いに推奨**しています。

5. 中学受験を始める時期

志望校にもよりますが、

この地域（常翔学園・大阪国際など）を目指す場合は、

小5からの本格スタートが望ましいです。

理由：

小6の1学期までに小学校範囲を修了し、受験対策に入るため。

6年生から始める場合は、特に算数を**高速カリキュラム+ICT 併用**で進める必要があります。

アシストではその両立をサポートしています。

6. 中学受験で最も大切なこと

中学受験の鍵は、「頭の良さ」ではなく**集中力と継続力**です。

- 長時間座って勉強できるか
- 毎日コツコツ続けられるか

私立中学では、入学後もかなりの勉強量が求められます。

例として近隣の**大阪国際中学 上位クラス**では、

中3時点で英検2級相当の単語を学習します。

つまり、「合格後に燃え尽きない体力・集中力」が必須です。

これを**小学生のうちに養う**ことが、最重要の準備です。

7. 中学受験をすすめるもう一つの理由

アシストが中学受験をすすめる最大の理由。

それは――

****「授業態度の悪い生徒がいない環境」**だからです。**

私立中の授業では、全員が受験を通過しているため、

「まず座れ」「話すな」と注意されるような環境はほぼありません。

一方、公立中では残念ながらそのような指導が必要なクラスも存在します。
すると、**真面目に学びたい生徒が損をすること**になります。
アシストでも、他の生徒の学習を妨げる行為は厳しく制限します。
該当する場合、**入塾をお断り、または退塾**いただきます。

8. 英語受験という選択肢

国語・算数が苦手な生徒には、**英語受験**もおすすめしています。
近年では、

- 国語・英語
- 国語・算数・英語

のように、英語を含む入試方式を採用する学校が増えています。
難易度も比較的穏やかで、**得意科目を活かした受験**が可能です。

9. アシストの情報収集体制

アシストでは、中学受験情報を**各学校から直接入手**しています。

- 学校訪問・面談
- 学校側からの訪問
- 合格目安・入試傾向の直接確認

ネットの噂や古いデータではなく、**最新の実情を基にした指導**を行っています。

▶ まとめ：アシストの中学受験方針

- 目的は「合格」ではなく「入学後に伸びる力」
- 集中力と体力を鍛える環境づくり
- ICT+個別で高品質×低価格の両立
- リアルな情報と現場主義に基づく受験指導

アシストの中学受験対策は、

“量をこなす”ではなく、“本気で伸びる力を養う”ための指導です。

Ⅲ. 英語教育：英検を軸とした実践的な英語力育成

1. 共通テストの難化と現実

2023年の共通テストは、**英語が大幅に難化**したことで話題になりました。

センター試験時代と比べても**問題量は約1.8倍**です。

特に注目すべきは、**200点中100点がリスニング**である点です。(点数配分にもよりますが)ペーパーテスト中心で学んできた生徒が、高3で急にリスニング対策をしても点は取れません。

この難易度は英検でいうと、**2級以上～準1級未満程度**。

上位層であれば準1級レベルの力が求められます。

英検2級レベルでは、時間切れで解き終わられない生徒がほとんどです。

つまり――

高2修了時に英検2級レベルに達していないと、共通テスト対策は厳しい。

理想は高1前半で準2級、高2で2級取得。

大学受験を意識するなら、遅くとも高2で準2級合格を目指すべきです。

関関同立以上を目指すなら、**高2で2級レベルの単語力が必須**。

アシストではそのペースを目標としています。

2. アシストの英語ロードマップ

アシストでは、生徒の発達段階に応じて明確なステップを設定しています。

学年目安 目標級 到達目安

中2夏休み後 英検3級 中学英語の基礎完成

高1前半 準2級 高校英語の基礎力獲得

高2修了時 2級 共通テスト・一般入試対応

高3 準1級 上位大学・難関大対応

この進行に合わせ、**リスニング・スピーキングを含む4技能型指導**を行います。

私立中学では、英検やTOEICを受ける学校も多く、

アシストでもそれに対応したリスニング・英作文指導を行っています。

3. 文法を重視した基礎固め

中高一貫校では、英語の授業が「文法」と「リーディング」に分かれていることが多いですが、

公立ではそこまで体系的に文法を扱いません。

そのため、アシストでは**学校以上に文法を体系的に学習**します。

リーディングや会話の基礎は、文法を理解してこそ成り立ちます。

4. 文理学科と英検2級の相関

英語で上位校を目指す場合、**英検2級は必須ライン**です。

以下は実際の高校別データです。

- **大手前高校**：合格者の6割が英検2級取得
- **四條畷高校**：45%が英検2級取得
- **北野高校**：95%が英検2級取得

背景には、文理学科の英語が非常に難しく、

英検資格を利用した受験の方が合格点を取りやすいという現実があります。

英検2級は「単語と型」を覚えれば6割程度で合格できるとはいえ、

それでも相当な努力が必要です。

小学生からの早期英語教育が理想です。

5. 英検取得のすすめ

アシストでは、英語学習の指針として英検を推奨しています。

以下、各級の目安と学習方針を整理します。

● 5級：中1前半レベル

中学英語の入口です。

アルファベット・基礎単語・be動詞の理解を目的とします。

● 4級：中1+中2一部

平均以上の中1生であれば十分合格可能。

5級との難易度差は大きくありません。

年間の受験回数が限られるため、**小学生～中1での取得**が理想です。

● 3級：中2前半～中2範囲

中2の夏頃までに合格できると理想的です。

英検3級の最大のメリットは、**中学英語の文法と単語を体系的に習得**できること。

早期合格で「英語＝得意科目」化が可能です。

遅れた場合でも、中学英語の基礎固めとして価値があります。

● 準2級：高校基礎+中学応用

中学英語が完成したうえで、高校単語・文法を一部学習。

五ツ木模試で偏差値60前後なら、十分合格可能。

単語が苦手でも、**英作文とリスニングで高得点**を取れば合格圏に届きます。

● 2級：高校卒業程度（中堅私大レベル）

産近甲龍以上を目指すなら必須レベル。

実際には、英検2級レベルの英語力がなければ、

産近甲龍合格は厳しい場合が多いです。

上位の文理学科を志望する場合は、**中学のうちに2級取得**が理想。

リスニング・英作文を伸ばせば十分可能です。

● 準1級：難関大・英語得意層向け

準1級を取得すれば、**満点換算される大学もある**ほどの強力な資格です。

英語を得意科目にしたい生徒は、挑戦をおすすめします。

6. 英検と大学受験の関係

英検2級は、大学入試においても**共通語彙の基準値**になります。

具体的には次のような対応関係です。

目標大学群 英検目安

対策時期

国公立大学 2級（高2前半）

高1～高2で準2→2級へ

関関同立 2級（高2）

国公立と同様

産近甲龍 準2→2級（高2修了～高3初） 準2級で基礎完成、2級で合格圏

特に、**産近甲龍志望者は準2→2級の壁**を感じやすい。

早期に準2級を取得しておくことで、受験直前の負荷を軽減できます。

7. 英検取得の本質的メリット

英検2級が一つの目標ではありますが、

単なる資格ではなく、**英語力の指標そのもの**です。

英検2級レベル＝近畿大学入試レベル。

つまり、2級を合格できない英語力では、

産近甲龍以上の大学では苦戦する可能性が高い。

逆に言えば、**2級に合格する英語力があれば、受験英語は怖くない。**

語彙・文法・リスニング・ライティングすべてをカバーできるからです。

従ってアシストでは、

英検2級取得を**「大学受験突破の道標」**として位置づけています。

▶ まとめ：英語は“資格”ではなく“思考の技術”

- 高2までに英検2級を目標に設定

- リスニング・スピーキングを重視
- 文法と単語の体系的理解を徹底
- 資格より「英語で考える力」を育てる

アシストの英語教育は、点数を取るためのトレーニングではありません。

言葉としての英語を理解し、思考を深めるための学びです。

その結果として、英検も大学入試も自然に突破できる力が身につきます。

IV. 公立中学校対策：内申点の現実を見つめ、大学受験までを見据える

1. 公立中で起こっている内申点の問題点

公立中に通われている方が気を悪くされては申し訳ないのですが、
コロナ禍以降、**内申点が高くつく傾向**にあります。

私の知人で、とある私立高校の教師がいるのですが、
公立中学で通知表オール5の生徒でも、一番成績の良い生徒と悪い生徒で、
本番の500点満点ペーパーテストに**200点の差**がついているそうです。
つまり、**内申点と実際の学力が一致していない**のです。

また、学校ごとの差もあります。

同じくらいの学力でも、学校が違くと**平均で内申が1違う**生徒もいます。

学校によっては、「4」や「5」の範囲が広すぎるのです。

ですから、高校受験という目線では内申点が高いことはもちろん重要なのですが、
一方で、大学受験という目線では**実態よりも内申点が高くなるため、大学受験で苦勞する**
ということが多々あります。

2. 大学受験を意識した進路指導と情報提供

アシストでは、**大学合格を一つの目標**にしています。

そのため、進路指導や情報提供もすべて**大学受験を意識した設計**で行っています。

たとえば、大学受験を指導していない塾では分からないことがあります。

それは、**公立高校と私立高校の大学受験の実態の違い**です。

あまり知られていませんが、**中堅レベルの高校であれば、同じ偏差値なら私立高校に進学し**
たほうが、はるかに大学受験はしやすくなっています。

理由は2つあります。

① 推薦枠の差

私立は推薦枠が多く、公立は推薦枠が非常に少ないのです。

私立であれば評定3.5程度でもどこか推薦を取れることが多いですが、
公立では4を超えても取れないことがあります。

私立高校では推薦枠が余ることすらあるにもかかわらず、
同じレベルの公立では推薦枠がほとんどありません。

② 授業内容と大学受験のギャップ

公立高校で行われている授業と、大学受験の出題内容が必ずしもリンクしていないのです。
定期テストで高得点を取っても、大学受験のレベルでは対応できないケースが多く見られ
ます。

(この点については「高校生指導」で詳しく述べます。)

3. 公立中学におけるアシストの英語対策

次に、公立中学校の**英語対策**についてお話します。

繰り返しになりますが、学習指導要領の改定以降、**英語は格段に難しくなっています**。

具体的には、**覚える英単語が以前の約 1.5 倍**になっています。

たとえば、以前であれば *I am / you are* を学習している時期に、

現在では *I want to* などの不定詞も形だけとはいえ授業で扱われています。

多くの個別指導塾は週 1 回 80~90 分の授業で行っていますが、

勉強量が増えているのに、以前と同じ指導で成果が出るはずがありません。

確かに成績がアップする生徒もいますが、

そういった生徒さんはもともと平均より上で、**英語の基礎力がついてる層**です。

具体的に言うと、**英検 3 級**を持っている生徒は、**中学英語で根本的に躓くことがまずありません**。

したがってアシストでは、可能であれば**中学 2 年**、遅くとも**中学 3 年の夏までに英検 3 級の取得**をサポートします。

そのために、一定の条件のもとで**英検対策の授業を週 1 回無料**とさせていただいています。

多くの個別指導塾では、英語・数学の週 2 回を受講する生徒が多いですが、

アシストでは**英語 2 回・数学 1 回の週 3 回**を推奨しています。

(授業料は週 2 回と同じです。)

4. 勉強がとにかく苦手な生徒様へ

勉強がとにかく苦手な生徒さん——

たとえば 500 点満点で 150 点以下の生徒様も、**やる気のある方は大歓迎**です。

もし学校の宿題もまともに提出したことがない場合は、

科目にとらわれず、まずは**学校の宿題を完成させる**ことから始めます。

(ただし副教科は対象外です。)

一緒に頑張ることで、まずは「宿題をやりきる」ことを目標にします。

宿題をしっかりと提出し、ノートなどの提出物を整えれば、

定期テストの点数が悪くても**通知表で 3 がつく可能性が高い**です。

本番の点数よりも、**内申点で合格できる学校選び**をおすすめします。

まずは**通知表オール 3**を目指すことから始めましょう。

5. 五科目の定期テスト対策

中学生（中高一貫生も含む）につきましては、

定期テスト前には、普段受講していない**理科・社会などの補講**も可能です。

その場合、必ずしも 1 : 2 の授業をお約束できませんが、

無料で補講としてのテスト対策を行っています。

ご希望があれば、可能な限り対応いたします。

6. ICT教材を活用した五科目指導と個別指導の選択

公立中学生は、以下の2つの指導形態を選択できます。

- ICT教材を活用した自立型個別指導
- 講師1名：生徒2名までの完全個別指導

ICT教材は5科目対応で、月額25,800円と低価格で受講できます。

目的・学力・家庭の状況に応じて、最適なスタイルを選べます。

7. 発達障害のある生徒様について

発達障害のある生徒様については、ケース・バイ・ケースで対応させていただいております。

大変申し訳ございませんが、

強度の自閉症などで周囲の生徒様の学習を乱す可能性がある場合は、

専門家の不在のため、入塾をお断りしております。

▶ まとめ：アシストの公立中対策方針

- 内申点の実態を正確に理解し、現実に即した学習設計を行う
- 大学受験を見据えた進路情報と学習指導を提供する
- 英検3級取得を軸にした“英語2回+数学1回”の効果的指導
- 宿題のやり切り・通知表3を目指すことで、基礎的成功体験をつくる
- ICT+個別の柔軟な選択制で、続けられる学びを支援する
- ケースに応じた誠実な入塾対応で、安心できる学習環境を守る

アシストの公立中対策は、

「制度のズレに飲み込まれない力」と「現実に強い基礎学力」を育てることを目的としています。

V. 中高一貫校対策：学校に合わせた“完全個別設計”

1. 通塾生の傾向と指導実績

アシストでは、公立中学よりも**私立の中学・高校の生徒様が多く通塾**されています。

当塾は2025年3月で5年目を迎えますが、これまで**常翔学園・大阪国際・同志社香里・開明・帝塚山・奈良学園登美が丘・香里ヌヴェール**

といった中高一貫校の生徒さんに通塾いただいております。

また、代表の前田自身も**以前は大手の中高一貫校専門個別指導塾に勤務**していた経験があります。

そのため、公立中専門の塾に比べ、より**生徒一人ひとりに合わせた柔軟な指導**を提供しています。

2. 学校・担当教員ごとの授業対応

中高一貫校の生徒様については、学校ごとというよりも、**担当の先生ごとに授業内容を合わせる必要**があります。

そのため、アシストでは学校カリキュラムに準拠しつつ、

生徒様本人の理解状況や担当教員の方針に合わせて指導内容を調整しています。

単に「学校の授業についていく」のではなく、**学校+生徒本人+家庭学習**を総合的にマネジメントしています。

3. 中学受験偏差値と授業レベルの“意外な関係”

これから中学受験をご検討されている方に参考までにお伝えします。

「偏差値の高い中学校＝授業レベルが高い」と思われがちですが、実際には**必ずしもそうではありません**。

たとえば、近隣の私立中学校である

常翔学園さん・大阪国際さん・開明さんを比較してみましょう。

入試難易度としては**開明さんが最も高い**のですが、

授業進度や内容の難易度が大阪国際さんと大きく違うかということ、**実はそれほど差はない**ように思います。

また、中学入試の難易度では常翔学園さんのほうが大阪国際さんよりやや高い印象がありますが、

****カリキュラムのスピードは大阪国際さんのほうが早い（特に英語）****という傾向もあります。

4. 学校ごとの特色と授業対応

京阪沿線でいえば、**同志社香里さんは非常に特殊**です。

社会・理科はほぼ完全にオリジナルのカリキュラムで、
英語についてもネイティブ感覚に近い先生が指導しており、
いわゆる受験英語では扱わないような文法まで踏み込むことがあります。
アシストではそのような場合、**学校の先生の授業方針に合わせた指導**を行いながら、
必要に応じて**補足説明**を加えることで理解を深めます。
つまり、“学校教育の枠を尊重しながら、塾としての専門性を加える”——
それがアシストの中高一貫校対応方針です。

5. 中高一貫校で注意すべきポイント

中高一貫校の最も大きな注意点は、**高校受験がない**ことです。
そのため、内容が分からなくなっても**そのまま進級**してしまうケースが多く見られます。
特に注意が必要なのは**英語**です。
中高一貫校で高3になってから「挽回したい」と思っても、**相当の努力が必要**になります。
実際に、アシストの一期生にもそうした生徒さんがいました。
その生徒さんは高3の1学期に入塾し、なんと**“Are you”**と**“Do you”**から**復習****を始めました。
つまり、中1英語からのやり直しです。
毎日6時間ほど、ひたすら英語の勉強を続けました。
その結果、**桃山学院大学に合格**。
これは、生徒さん本人の努力の賜物です。
しかし、そもそも嫌いな科目であったからこそ今までやってこなかったわけで、
相当の覚悟と努力が必要だったことも事実です。

▶ まとめ：中高一貫校指導の基本理念

- 中高一貫校では、“学校ごと”ではなく“先生ごと”に**授業を合わせる柔軟さ**が必要
- 偏差値の高さよりも、**実際の授業進度・指導方針の違い**を見極めることが大切
- 苦手科目の放置は進級後に深刻な学力差を生む
- 早期の段階でつまずきを発見し、**復習と定着の仕組み**を整えることが鍵

アシストでは、学校の特性を尊重しながら、

****生徒一人ひとりの歩調と未来に合わせた“現実的な個別設計”****を行っています。

VI. 高校生指導：高校選びから大学合格まで“設計する学び”

1. 高校生・大学受験対策

先ほど申しましたように、私どもの指導方針として、
大学受験を検討されているご家庭につきましては、
高校選びの時点で、大学受験を意識した生徒様への進路指導および、保護者様への情報提供
を行っています。

したがって、大学受験を意識しているご家庭につきましては、
高校受験はあくまで一つの通過点として、高校受験の情報提供を行っています。
大学受験という観点で大阪近辺の高校選びを考えると、
**東高校より下の偏差値ラインであれば、経済的に問題がなければ私立高校を選んだほうが
良い**と思います。

(すでに公立高校を選ばれた方は非常に恐縮ですが。)

その大きな理由は「推薦枠」です。

偏差値が同じ、いや多少低くても、**私立のほうが推薦枠が圧倒的に多い**のです。
数年前、旭高校の教え子が評定で4.2もあったのに推薦が取れなかったということもありま
した。

(一般入試で合格しましたが。)

個人的には公立学校の制度的問題だと思っていますが、それが現実です。

2. 高校生の英語対策

アシストでは、生徒様に合わせて授業を行っています。

学校の補講として、**学校カリキュラムに沿った授業**を行うこともできますし、
学校の進度を無視して**大学受験対策中心の授業**を行うことも可能です。

基本的には、中高一貫校の生徒さんは学校に合わせた授業を行いますが、
高2以上で入塾された生徒さんや、学校の進度が遅い／逆に早すぎる場合には、
大学受験を意識した**独自のカリキュラム**で授業を実施します。

特に高3生になると、**学校のカリキュラムに合わせる意味がほとんどない**ため、
原則として、学校に合わせず大学受験対策を行います。

また、**高2までに英検2級を取得することを推奨**しています。

英検2級を取得すれば、大学によっては**ほぼ合格点**をもらえる大学もあるほか、
「自分で英語を学び進められる基礎力が身についている」という目安にもなります。

3. 高校生の文系対策

産近甲龍以上の大学を目指す場合、

多くのケースでは **英語・現代文・古文・社会の4科目受験**になります。

偏差値で言うと摂南以下の大学や、公募の一部は **英語と現代文の2科目受験**です。
つまり、**産近甲龍以上を目指すか、それ以外かで学習設計が大きく変わる**ということです。
特に、中堅公立高校の生徒さんの場合、
古典と社会が大きな負担になりやすいため、**高1からの通塾**をおすすめしています。
文理選択がまだでも、早い段階から英語力を固めておくことが重要です。

- **古典**：基礎文法を高2の夏休み前までに完成させる
- **社会**：高2の間に一周しておく（2年かける学校は遅すぎる）

3年生になってから追い込みをかけるのではなく、
英語・古典・社会の基礎をできるだけ**早期に身につける**ことが鍵です。
また現代文については、**漢検準2級以上の取得**を目安に漢字を鍛えながら、
アシストが提供する**プロ講師による現代文授業**を受講するのがおすすめです。

4. 高校生の理系対策

理系に進む場合は、文系以上に**早く進路を決めておく必要**があります。
理由は単純で、**数学Ⅲ・Cのスケジュールが非常にタイト**だからです。
大学受験は2月が本番です。

つまり、

高1で数学Ⅰ・A、

高2で数学Ⅱ・B、

高3で数学Ⅲ・C

というペースでは**間に合いません**。

特に神戸大学以上を目指す場合は、

高1の1学期でⅠ・Aを終わらせ、2学期にⅡ・Bに進む必要があります。

実際、東高校以上の進学校はそのスピードで進んでいます。

また中高一貫校では、中3の段階で高校数学に入る学校も多いですが、
それは理系に進んだ場合、**高2までにⅢ・Cの大部分を終えるため**です。

5. 大学受験対策の現状

ここまで述べてきた内容を踏まえて、

現在の大学受験の実情を整理します。

学校で真ん中より上の成績を取っているご家庭の多くは、

いずれ大学を意識されていると思いますので、ぜひ参考にしてください。

(1) 大学全入時代とその裏側

現在は少子化の影響により、

全国の大学の**募集定員よりも志願者数のほうが少ない**と言われています。

つまり「どこでもいいなら大学には誰でも入れる」と言っても過言ではありません。

しかし実際には、**大学入試はむしろ難化している**と言ってよいでしょう。

その背景には、**情報の格差**があります。

たとえば、私立大学の募集定員が100人だとして、

そのうち半分は「指定校推薦」「総合型入試（旧AO）」など、

学校内申点で決まる推薦枠で埋まることが多いのです。

その結果、残りの「一般入試（本番一発勝負）」枠が減り、

一般入試の競争率・難易度が上昇しています。

さらに、推薦枠の多くは**私立高校が保有**しています。

私立高校では推薦枠が余ることもありますが、

公立高校では不足しているのが現状です。

実際、1学年200名で「指定校枠700名」という私立高校も存在します。

また、カリキュラムの内容を見ても、**私立高校のほうが大学受験に適している**ケースが多く見られます。

大学受験を前提にするなら、

公立高校であれば東高校以上のレベルに入りたいところです。

アシストでは、高校受験を「大学受験へのステップアップ」と位置づけ、

進路相談・情報提供を行っています。

（2）偏差値の数字だけで高校を選ばない時代

多くのご家庭が、「現時点の学力でできるだけ偏差値の高い高校」を目指します。

しかし大切なのは****出口（大学・将来）****です。

大学受験という観点では、

偏差値の高い高校が必ずしも高い大学に有利とは限りません。

また、大学進学を目指さない場合も、

自分の進路に合った高校を選ぶことが大切です。

つまり、**偏差値の数字だけで高校を選ぶ時代ではない**ということです。

（3）推薦を狙うか、上を狙うか

大学受験には大きく分けて2つの方法があります。

- 本番一発勝負の一般入試
- 学校推薦・総合型選抜などの推薦入試

国公立はほぼ一般入試一本ですが、

私立大学の場合は**推薦が決まれば圧倒的に有利**です。

しかし、自分の行きたい大学に推薦枠があるとは限りません。

また、私立高校は多くの場合、**入学時の学力によってコースが分かれています。**

(すべてのコースに推薦枠がある学校もありますが少数で、そうした学校は「生徒の自主性」を重視する傾向があります。)

例：高校のコースと推薦枠の関係

甲高校

- 特進コース：偏差値 60
- 普通コース：偏差値 55

乙高校

- 特進コース：偏差値 55
- 普通コース：偏差値 50

Aさんの偏差値は55の場合、

甲高校の普通コースか乙高校の特進コースに合格できる可能性があります。

多くの場合、**特進コースには推薦枠がありません。**

つまり、「自分で本番で勝負しなさい」ということです。

ただし、努力できる生徒であれば、

乙高校の特進コースのほうがより上位大学を狙えるでしょう。

どちらを選ぶかに**絶対の正解はありません。**

しかし、実は高校入学前からすでに**大学進学は始まっている**のです。

▶ まとめ：アシストの高校生指導理念

- 高校受験は“大学受験への準備段階”として設計する
- 英検2級取得を軸に、早期に受験基礎を固める
- 文系・理系それぞれの到達スケジュールを明確化
- 情報格差・推薦制度の現実を理解した進路提案
- 「偏差値」より「出口」で考える教育設計

アシストの高校生指導は、

*****“制度に流されないための現実教育”*****です。

単なる受験対策ではなく、

高校選び・科目設計・大学入試までを一貫して支援する指導体系を構築しています。

VII. アシストの考える「良い授業」とは

1. 良い授業とは何か

当然のことながら、生徒のやる気が上がって成績が上がり、志望校に合格するのが良い授業です。

しかし、それはあまりに抽象的な答えです。

ここでは、個別指導塾においてよくある誤解についてお話ししておきたいと思います。

2. 「先生がたくさん話す授業」が良い授業とは限らない

基本的に、個別指導における良い授業とは、

講師が話している時間が短く、生徒がペンを動かしている時間が長い授業です。

生徒の多くは、すぐに「解き方」や「答え」を知りたがります。

しかし大事なのは、**考えることや勉強の仕方を学ぶ**ことです。

講師はポイントだけを伝え、生徒が自分の手を動かして考える時間を確保する。

それが良い授業です。

ただし、例外もあります。

たとえば――

- 高3の難しい数学
- 英語の長文
- 中学受験の国語

こういった科目は、あらかじめ生徒が自習や宿題で解いてきて、講師が解説したり質問に答える形になります。

そのため、**講師の話す時間が長くなるのは当然**です。

しかし、**平均レベルの中学生**であれば、

むしろ「生徒がペンを動かしている時間が長い授業」のほうが良い授業と言えます。

3. 「通塾しているだけ」では成績は上がらない

たとえば、週1回80分、宿題もなし。

このような授業で結果が出るのは、**公立中学校の平均点以下の生徒**までです。

基本的に、**成績上位層・学年**が上がるほど、

塾に来ていないときの**勉強法と勉強量**が成績を左右します。

週1回80分で合格できる大学など存在しません。

もしそれで合格できるなら、そもそも塾に通う必要はありません。

アシストでは、

- **自習スペースは営業時間中いつでも利用可能**
- **補講は原則無料**

- **最低限の宿題は必須**

特に中学受験生には、授業以外の時間も含めて宿題を指示します。

自習スペースで取り組み、わからないところはいつでも質問可能です。

4. 「叱る」ことと「支える」こと

小中学生には叱ります

多くの個別指導塾は、集団塾ほど生徒を叱りません。

しかしアシストは違います。

態度の悪い生徒や宿題をしない生徒は叱ります。

特に中学生・中学受験生は、**集団塾と同じように厳しく指導**します。

場合によっては、「帰れ」と言うこともあります。

アシストでは補講も可能な限り無料で行い、

自習スペースも提供しています。

だからこそ、**真面目に勉強したい生徒が安心して学べる環境**を守るために、

宿題をしない生徒やふざける生徒にはきちんと叱ります。

ただし、叱るだけで終わらせず、**必ず補講でフォロー**します。

高校生は叱りません

高校生には叱りません。

勉強のやり方は伝えますが、「やる気がない」と言う段階の生徒は、やる気が出てから来てください。

高校生には、**自分で考え、選び、責任を持つ段階**にあることを理解してもらいます。

5. 学習環境の提供

アシストでは、**勉強できる最高の環境**を提供しています。

- **コピー機・プリンタ：無料利用可能**

学校や塾のプリント、教材のコピーは自由に行えます。

- **Wi-Fi 環境：無料開放**

最近では学校から課題や解答をデータで受け取るケースも多いため、Wi-Fiを自由に利用できるようにしています。

- **自習スペース：常時開放**

授業がない日も利用可能です。

中学生はいつでも**5科目質問可能**、高校生も科目に応じて質問できます。

- **補講：原則無料で実施**

理解不足や欠席フォローにも柔軟に対応しています。

▶ まとめ：アシストの「授業観」

- 講師が話す授業より、生徒が考える授業を重視する
- 通塾だけに依存せず、家庭学習と自習を重視する
- 小中学生には叱って支え、高校生には自己責任を促す
- 勉強できる最高の環境（設備・補講・質問体制）を提供する

アシストは、

「やる気がある生徒が、最も力を伸ばせる塾」でありたいと考えています。

やる気のある生徒様を、心よりお待ちしております。

個別指導学院アシスト

学院長 前田敏秀